

授業でコンバートEV実習

次世代の技術を習得へ

【水戸】水戸自動車大学校（八文字和宏学長）は、授業の中でコンバートEV（改造電気自動車）の実習実習を行っている。時代の先端を行く技術を学生に学んでもらうため、同校の教諭が中心となって製作したコンバートEVを教材として活用している。初代より高性能な部品を使用する多目的コンバートEVの製作準備も既に始めており、次世代の技術をいち早く学生に伝えていく考えだ。

地球の温暖化防止に取り組み、CO₂を一切排出しないEVが次世代の車として注目

雅実教諭が当時の1級自動車整備学科の4年生5人とともに、2009年5月に製作を

コンバートEVの実習実習は10年度から本格的に授業に取り入れ、1級自動車整備学科の3年生と4年生を対象に行っている。実習実習では構造確認や整備方法をめぐって、学生が学んでいる。

「初代コンバートEVはプラモデル。そのため、より勉強になる2代目を製作する準備を始めた。年内に完成させたい」と時代の先端を行く知識の習得を目指す学生をバックアップしていく考えだ。

め、公道でコンバートEVに



日本EVフェスティバルに参加した同校のコンバートEV

を集め、今後の需要拡大が予想されている。そのため同校も時代の先端を行く車の知識をいち早く学生に伝えようと、コンバートEVの実習実習を授業に取り入れた。

この年の1月に開催された「日本EVフェスティバル」にも参加し、60分間の耐久レースで完走した。さらに公道を走るため、改造書類を自動車協会に提出し、その1カ月後の12月にナンバーを取得した。

試乗してもらい、ガソリン車との違いを体感してもらう実習実習も行った。学生からは「思った以上に加速がよい」や「静かで振動がない」などの驚きの声が上がると、授業に取り入れた成果が上がっている。

10年12月末からは2代目のコンバートEVの製作準備に入っている。ハイブリッド専用車のプリウスとインサイトが搭載するモーターに性能が近く、バッテリーの省電力に役立つ「DCブラシレスモーター」、ブレーキをかけた際に摩擦エネルギーで電気を発生させる「回生ブレーキ」を搭載する予定だ。

雅実教諭は「初代コンバートEVはプラモデル。そのため、より勉強になる2代目を製作する準備を始めた。年内に完成させたい」と時代の先端を行く知識の習得を目指す学生をバックアップしていく考えだ。